

平成30年度

**宮崎大学工学部  
編入学学生募集要項  
(推薦入試・一般入試)**



宮崎大学工学部

# 工学部の教育

## 1) 工学部・工学研究科の教育理念

科学技術に関する知的財産を継承・発展させるとともに、市民生活及び産業の発展を担う優秀な人材を育成することによって、社会の発展と人類の福祉に貢献することを基本理念とする。

## 2) 工学部の教育目的

21世紀の技術者は、専門知識だけでなく、技術者としての高い倫理観を持ち、地球的規模で物事を考えることが要求される。また、環境問題の解決や高度情報化社会への対応など、従来の技術だけでは対処できない課題が次々に発生してきている。

このような背景のもとで、本学部では、十分な基礎学力と幅広い応用力を身につけ、課題探求能力とデザイン能力を持ち、優れたコミュニケーション能力を備え、自主的・継続的に学習でき、国際的に通用する人間性豊かな専門技術者及び研究者の養成を目指す。

このため学部教育では、日本技術者教育認定機構（JABEE）による教育プログラムに責任をもって対応できる体制を構築する。また、宮崎地域における唯一の工学系学部として、地域社会に高度な工学教育の場を提供することで地域への貢献を果たす。

## 3) 工学部の教育目標

専門教育は、必要な基礎及び専門知識と実践能力を身につけた自立した工学技術者を養成できる専門教育プログラムを構築し、かつ、そのプログラムの点検評価及び改善体制を整える。次のような知識及び能力を身につける教育を各学科の専門教育の中で実現する。

- ◎専門分野に深い興味を持ち、自学自習による自発的な学習能力を育成する。
- ◎自然科学や専門領域に対する基礎知識を身につけ、その知識を基にグローバルな視点から多面的に物事を考える能力を育成する。
- ◎工学技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、工学技術者として必要な倫理・規範や責任を判断できる能力を育成する。
- ◎身につけた専門知識を課題の発見や探究に利用し、更に課題解決へ応用できるデザイン能力を育成する。
- ◎日本語による論理的な記述、口頭発表及び討議ができ、かつ基礎的な工学英語を使ったコミュニケーション能力を育成する。
- ◎学生の知識や能力の向上を厳正に評価し、教員による適切な学習指導と教育内容の改善により基本的な専門知識と課題解決の能力を身につけた人材を養成する。

## I. 募集学科及び募集人員

学 科	入学定員	推薦入試	一般入試
環 境 応 用 化 学 科	10名	推薦による選抜は、 各学科とも若干名	推薦入学者数と あわせて10名
社会環境システム工学科			
環境ロボティクス学科			
機械設計システム工学科			
電 子 物 理 工 学 科			
電気システム工学科			
情報システム工学科			

## II. 編入学年次

平成30年4月に3年次に編入学する。

## III. 実施方法

### 推薦入試

#### 1. 出願資格

- (1) 高等専門学校を卒業した者及び平成30年3月卒業見込みの者で、出身学校長が人物及び学力ともに優秀で、健康状態が良好と認め、責任をもって推薦できる者。
- (2) 短期大学を卒業した者及び平成30年3月卒業見込みの者で、出身短期大学長が人物及び学力ともに優秀で、健康状態が良好と認め、責任をもって推薦できる者。  
(注1) 合格した場合は、入学することを確約できる者であること。  
(注2) 各学校からの推薦者は、各学科2名以内とする。

#### 2. 出願手続

- (1) 出願期間：平成29年4月27日（木）～平成29年5月8日（月）  
ア 本学所定の「出願用封筒」を使用すること。  
イ 受付時間は、午前9時～午後5時まで。（土・日および祝日を除く）  
ウ 郵送の場合は、5月8日（月）午後5時までに必着のこと。
- (2) 提出先：〒889-2192 宮崎市学園木花台西1丁目1番地  
宮崎大学工学部教務・学生支援係  
TEL 0985-58-2874

### 3. 出願書類等

書 類	提 出 時 の 注 意
編 入 学 志 願 票 写 真 票 ・ 受 験 票	本学所定の用紙を使用すること ※以外の所定の欄はすべて明記すること 写真【上半身、無帽、正面向き】は、所定欄に貼付すること
推 薦 書	本学所定の用紙を使用し、出身学（校）長が発行したもの
志 望 理 由 書	本学所定の用紙を使用し、本人が自筆で記入すること
卒業（見込）証明書	出身学（校）長が発行したもの
成 績 証 明 書	最終学歴の成績証明書（厳封したもの）
入 学 検 定 料 (30,000円)	本学所定の振込依頼書を使用し、検定料を納入すること
払込証明書貼付台紙	本学所定の用紙を使用し、検定料払込証明書（C票）を貼付すること
返 信 用 封 筒	本学所定のもの（2枚） 【受験票等を送付するので、郵便番号、住所及び氏名を明記の上、 1枚のみ362円切手（速達）を貼付すること】
あ て 名 票	本学所定のもの【通知を受取る住所を正確に記入すること】

### 4. 選抜方法

入学者の選抜は、面接試験及び出願書類（成績証明書、出身学校からの推薦書及び志望理由書）の結果を総合して行う。

学 科 名	面 接 試 験 の 内 容
環 境 応 用 化 学 科	面接（基礎的な英語、数学、物理化学及び有機化学に関する口頭試問を含む）
社会環境システム工学科	面接（口頭試問を含む）
環境ロボティクス学科	面接（口頭試問を含む）
機械設計システム工学科	面接（口頭試問を含む）
電 子 物 理 工 学 科	面接（口頭試問を含む）
電 気 シ ス テ ム 工 学 科	面接（基礎的な英語、数学、電磁気学、電気回路に関する口頭試問を含む）
情 報 シ ス テ ム 工 学 科	面接（口頭試問を含む）

### 5. 試験期日及び場所

期日：平成29年5月16日（火）午前9時00分より

場所：宮崎大学工学部

### 6. 受験上の注意事項

- (1) 受験の際には、必ず本学の受験票を持参すること。
- (2) 集合時刻 午前8時30分
- (3) 指定された時間に遅れた場合、特別な事情がない限り面接を認めない。
- (4) 集合場所 工学部北側入り口

## 7. 合格発表

- (1) 平成 29 年 5 月 26 日（金）午前 10 時
- (2) 工学部に掲示するとともに、合格者には「合格通知書」を送付する。また選考結果を同日付けで推薦学校長に通知する。
- (3) 電話等による合否に関する問い合わせには一切応じない。なお、合格者は合格通知書に同封する入学確約書を6 月 23 日（金）（当日消印有効）までに提出するものとする。

## 8. 不合格者の取扱い

「推薦入試」の結果、不合格になった者で「一般入試」の受験を希望する者は、所定の方法により改めて検定料を添えて出願すること。ただし、成績証明書は、提出する必要はない。

# 一般入試

### 1. 出願資格

- (1) 高等専門学校を卒業した者及び平成 30 年 3 月卒業見込みの者。
- (2) 短期大学を卒業した者及び平成 30 年 3 月卒業見込みの者。
- (3) 大学を卒業した者及び平成 30 年 3 月卒業見込みの者。
- (4) 学校教育法第 104 条の 4 第 1 項の規定により学士の学位を授与された者及び平成 30 年 3 月までに学士の学位を授与される見込みの者。
- (5) 大学に 2 年以上在学し、62 単位以上修得した者。（平成 30 年 3 月をもって 2 年間在学し、62 単位以上修得見込みの者を含む。）
- (6) 高等学校の専攻科の課程（修業年限が 2 年以上であること、その他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る）の修了者及び平成 30 年度 3 月修了見込みの者。ただし、学校教育法第 90 条に規定する大学入学資格を有する者に限る。
- (7) 専修学校の専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準（修業年限が 2 年以上で、かつ課程の修了に必要な総授業時数が 1,700 時間以上あること）の修了者及び平成 30 年 3 月修了見込みの者。ただし、学校教育法第 90 条に規定する大学入学資格を有する者に限る。

### 2. 出願手続

- (1) 出願期間：平成 29 年 6 月 5 日（月）～平成 29 年 6 月 9 日（金）
  - ア 本学所定の「出願用封筒」を使用すること。
  - イ 受付時間は、午前 9 時～午後 5 時まで。
  - ウ 郵送の場合は、6 月 9 日（金）午後 5 時までに必着のこと。
- (2) 提出先：〒 889-2192 宮崎市学園木花台西 1 丁目 1 番地  
宮崎大学工学部教務・学生支援係  
TEL 0985-58-2874

### 3. 出願書類等

書 類	提 出 時 の 注 意
編 入 学 志 願 票 写 真 票 ・ 受 験 票	本学所定の用紙を使用すること ※以外の所定の欄はすべて明記すること 写真【上半身、無帽、正面向き】は、所定欄に貼付すること
調 査 書	本学所定の用紙を使用し、出身学（校）長が発行したもの
卒業（見込）証明書 又は 修了（見込）証明書	出身学校等の長（学長、学部長、学校長）が作成したもの。 ※出願資格(4)による出願者は、大学改革支援・学位授与機構が発行する学士の学位授与証明書を提出してください。 ※出願資格(5)による出願者は、当該大学の学長（学部長）が作成する在学証明書又は在学期間証明書を提出してください。 ※出願資格(6)による出願者は、大学入学資格を有する者であることを証明する書類（高等学校卒業者は「高等学校長が発行する卒業証明書」等）を併せて提出してください。 ※出願資格(7)による出願者は、定められた出願資格を満たすことを証明する下記の書類を提出してください。 1) 修業年限が2年以上で、かつ、修了に必要な総授業時間数が1,700時間以上の専門課程を平成30年3月までに修了見込みであること、または修了したことを証明する書類 2) 専門士の称号付与が認められた専門課程を平成30年3月までに修了見込みであること、または修了したことを証明する書類 3) 大学入学資格を有する者であることを証明する書類（高等学校卒業者は「高等学校長が発行する卒業証明書」等）
成 績 証 明 書	出身学校等の長（学長、学部長、学校長）が作成したもの。 ※出願資格(5)による出願者は、修得済みの科目についての成績証明書並びに履修中の科目がある場合は、科目履修証明書（単位数が記入されたもの。）を提出してください。
学士（見込）証明書	出願資格(4)により出願する者は、大学改革支援・学位授与機構が証明したもの
入 学 検 定 料 (30,000円)	本学所定の振込依頼書を使用し、検定料を納入すること
払込証明書貼付台紙	本学所定の用紙を使用し、検定料払込証明書（C票）を貼付すること
返 信 用 封 筒	本学所定のもの（2枚） 【受験票等を送付するので、郵便番号、住所及び氏名を明記の上、1枚のみ362円切手（速達）を貼付すること】
あ て 名 票	本学所定のもの【通知を受取る住所を正確に記入すること】

### 4. 選抜方法

入学者の選抜は、筆記試験、面接試験、及び出願書類（成績証明書、調査書）の結果を総合して行う。

### 5. 試験期日及び場所

期日：平成29年6月20日（火）午前8時40分より

場所：宮崎大学工学部

## 6. 学力試験

- (1) 数 学(全学科) 8:40～9:40
- (2) 英 語(全学科) 10:00～11:00
- (3) 専門科目 11:20～13:00

学 科 名	専 門 科 目
環 境 応 用 化 学 科	化学一般(主に物理化学と有機化学)
社会環境システム工学科	構造力学、水理学、土質力学のうち1科目選択
環境ロボティクス学科	力学、電気回路、無機化学のうち1科目選択
機械設計システム工学科	材料力学
電 子 物 理 工 学 科	物理一般(主に電磁気学)
電気システム工学科	電磁気学、電気回路
情報システム工学科	情報数学、プログラミング

- (4) 面 接(全学科) 15:00～

## 7. 受験上の注意事項

- (1) 受験の際には、必ず本学の受験票を持参すること。
- (2) 集合時刻 午前8時30分
- (3) 筆記試験開始後、30分以上遅刻した者は失格とする。
- (4) 面接については、指定された時間に遅れた場合、特別な事情がない限り面接を認めない。
- (5) 集合場所 工学部北側入り口

## 8. 合格発表

- (1) 平成29年6月30日(金)午前10時
- (2) 工学部に掲示するとともに、合格者には「合格通知書」を送付する。
- (3) 電話等による可否に関する問い合わせには一切応じない。

なお、合格者は合格通知書に同封する入学確約書を9月29日(金)(当日消印有効)までに提出するものとする。

## IV. 入学手続

- (1) 入学手続日 平成30年2月下旬までに行う。  
(入学確約書提出者に対して、平成30年1月下旬に入学手続書類等を送付する。)

- (2) 入学手続時に必要な経費

入学料 282,000円

(注1) 入学料に改定があった場合は、改定後の入学料を納入していただくことになります。

(注2) 納入された入学料は、次の場合を除き、いかなる理由があっても返還できません。

- i. 入学手続をしなかった場合
- ii. 入学料を誤って二重に払い込んだ場合

授業料 前期分 267,900円 後期分 267,900円

年額 535,800円

(注1) 授業料は、新学期開始後に納入していただくことになります。

(注2) 授業料の納入は、原則として、預金口座からの「口座振替」とします。

i. 前期の口座振替日に関しては5月下旬頃、後期の口座振替日は10月下旬頃の予定です。

ii. 授業料に関する事項はホームページ (<http://www.miyazaki-u.ac.jp/education/campus/jugyou/>) にてご確認ください。

(注3) 授業料に改定があった場合は、改定後の授業料を納入していただくことになります。

(注4) 在学中に授業料の改定が行われた場合は、改定時から新授業料が適用されます。

### (3) 入学料免除

次のいずれかに該当する特別な事情により、納入が著しく困難であると認められる者は、本人の申請に基づき選考のうえ、入学料の全額又は半額を免除することがあります。

ただし、免除を希望しても「免除の対象者」に該当しない場合は申請できませんので、事前に担当(学生生活支援課：0985-58-7976)へ必ず連絡してください。

① 入学前1年以内において、本人の学資を主として負担している者が死亡した場合

② 入学前1年以内において、本人若しくは本人の学資を主として負担している者が風水害等の災害を受けた場合

③ 前各号に準ずる場合であって、学長が相当と認める事由がある場合

### (4) 入学料徴収猶予

次のいずれかに該当する場合は、本人の申請に基づき選考のうえ、入学料の徴収を猶予することがあります。

① 経済的理由により入学料の納入が困難であり、かつ学業優秀と認められる者

② 入学前1年以内において、本人の学資を主として負担している者が死亡した場合

③ 入学前1年以内において、本人若しくは本人の学資を主として負担している者が風水害等の災害を受けた場合

④ 前各号に準ずる場合であって、学長が相当と認める事由がある場合

### (5) 授業料免除及び徴収猶予

次のいずれかに該当する者は、本人の申請に基づき選考のうえ、授業料の全額又は一部免除若しくは徴収を猶予することがあります。

また、申請時期は大学の指定する日で前期・後期の年2回です。

① 経済的理由によって授業料の納入が困難であり、かつ学業成績優秀と認められる者

② 入学前1年以内において、本人の学資を主として負担している者が死亡した場合

③ 入学前1年以内において、本人若しくは本人の学資を主として負担している者が風水害等の災害を受けた場合

④ 前各号に準ずる場合であって、学長が相当と認める事由がある場合

### 入学料免除及び徴収猶予、授業料免除及び徴収猶予に関する問合せ先

学生支援部学生生活支援課 電話：0985-58-7976 (土曜日・日曜日及び祝日を除く)

(6) 既修得単位認定の申請に係る書類

- ① 既修得単位認定申請書
- ② 高専（大学）成績証明書

注）単位数及び評価の点数の記載があるもの。また、1 授業科目を複数年で履修している場合は、各学年別の単位数、評価の点数の記載があるもの。

- ③ 高専（大学）在学中のシラバス等

注）カリキュラム及び授業内容のわかるもの

(7) 在学中の保険制度について

本学では、学生が安心して修学及び研究活動ができるように、学生教育研究災害傷害保険（略称「学研災」）及び学研災付帯賠償責任保険（略称「学研賠」）を取り扱っています。

「学研災」は、修学及び研究活動中又は通学中に起こった不慮の事故により、加入者が身体に傷害を被った場合に災害補償する制度であり、全員加入としています。また「学研賠」は、加入者が修学及び研究活動中に他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したことにより被る法律上の損害賠償を補償する制度です。

さらに保障範囲を拡大した保険として「学研災付帯学生生活総合保険」があり、加入は任意です。これらの保険制度についての詳細と加入手続きについては、入学手続き類と併せて送付します。

**在学中の保険制度に関する問合せ先**

学生支援部学生生活支援課 電話：0985-58-7976（土曜日・日曜日及び祝日を除く）

(8) 学生寄宿舍への入居

学生寄宿舍に入居を希望する場合は、「学生寄宿舍入居者申請書要項」を11月から翌年1月初旬まで大学ホームページ（下記 URL）に掲載致しますので、ダウンロードの上、要項に従い申請してください。

要項掲載 URL：<http://gakumu.of.miyazaki-u.ac.jp/gakumu/>

なお、ダウンロードする環境がない場合は、下記にお問い合わせください。

学生支援部学生生活支援課 電話：0985-58-7142（土曜日・日曜日及び祝日を除く）

## **V. 編入学後の履修について**

- (1) 本学卒業の要件として、2～4 年間在学し所定の単位を修得すること。
- (2) 高等専門学校及び大学等で修得した単位を、本学部における授業科目の単位として読み替え申請の希望があった場合、認定することがある。なお、申請に際しては、単位認定資料（最終学校のシラバスなど講義内容がわかる資料）及び成績証明書（素点入り）を必ず提出すること。

## **VI. 障がい等のある入学志願者の事前相談**

次表のような障がい等があり、受験上及び修学上の配慮を必要とする者は、出願書類提出前に本学入試課へ相談してください。

(1) 相談期限

原則として 推薦入試 平成 29 年 4 月 14 日（金）まで

一般入試 平成 29 年 5 月 12 日（金）まで

ただし、期限を過ぎている場合又は出願締切後に、不慮の事故のため、特別な配慮を必要とされる場合については、早急に本学学生支援部入試課へ連絡してください。

(2) 相談方法

宮崎大学のホームページから相談申請書をダウンロードして次の内容を記載し、医師の診断書を添えて提出してください。(郵送可)

- ① 志望学部・学科
- ② 障がい等の種類・程度
- ③ 受験上・修学上の配慮を希望する事項
- ④ 出身学校でとられていた配慮事項
- ⑤ 日常生活の状況
- ⑥ 住所及び連絡先の電話番号

なお、必要な場合は、本学において志願者又はその立場を代弁し得る関係者との面接等を行うこともあります。

\*相談申請書ダウンロード先：<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/exam/1789-2>

(「宮崎大学」→「入試情報」→「試験・入学に関する情報」→「障害者支援」)

(3) 相談先

〒 889-2192 宮崎市学園木花台西1丁目1番地  
 宮崎大学学生支援部入試課  
 電話 0985-58-7138 FAX 0985-58-2865

区 分	障 が い の 程 度
① 視 覚 障 害	両眼の視力がおおむね0.3未満のもの又は視力以外の視機能障害が高度のもののうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度のもの
② 聴 覚 障 害	両耳の聴力レベルがおおむね60デシベル以上のもものうち、補聴器等の使用によっても通常の話を解することが不可能又は著しく困難な程度のもの
③ 肢 体 不 自 由 者	1. 肢体不自由の状態が補装具の使用によっても歩行、筆記等日常生活における基本的な動作が不可能又は困難な程度のもの 2. 肢体不自由の状態が前号に掲げる程度に達しないものうち、常時の医学的観察指導を必要とする程度のもの
④ 病 弱	1. 慢性の呼吸器疾患、腎臓疾患及び神経疾患、悪性新生物その他の疾患の状態が継続して医療又は生活規制を必要とする程度のもの 2. 身体虚弱の状態が継続して生活規制を必要とする程度のもの
⑤ 発 達 障 害	自閉症、アスペルガー症候群、広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害のため特別な措置を必要とするもの
⑥ そ の 他	①～⑤の区分以外の者で特別な措置を必要とするもの

備考 1. 視力の測定は、万国式試視力表によるものとし、屈折異常があるものについては、矯正視力によって測定する。

2. 聴力の測定は、日本工業規格によるオーディオメータによる。

## VII. その他留意事項

- (1) 出願書類に不備のあるものは受け付けません。
- (2) 出願書類の受付後は、記入事項及び書類の変更は認めません。また、受付後の出願書類の返還はしません。
- (3) 振り込み済の検定料は、以下の場合を除き返還いたしません。
  - ① 検定料を振り込んだが本学に出願しなかった（出願書類等を提出しなかった又は出願が受理されなかった）場合
  - ② 検定料を誤って二重に振り込んだ場合

### 返還請求の方法

検定料返還請求願（様式は問いません。返還請求理由、氏名（フリガナ）、現住所、電話番号、検定料返還先銀行口座名義（カタカナ）を明記したもの）を作成し、必ず「**C票 検定料振込証明書**」を添付して、以下へ平成30年3月31日（必着）までに郵送してください。

平成30年4月1日以降に申し出られた場合、返還に応じることはできませんので、ご了承ください。

〒 889-2192 宮崎市学園木花台西1丁目1番地

宮崎大学財務部財務課出納係 TEL 0985-58-7122

- (4) 出願書類等の請求は、封筒に「工学部編入学学生募集要項請求」と朱書し、あて名明記の返信用封筒（角形2号に250円切手貼付、速達は530円）を同封の上、下記あてに送ってください。

〒 889-2192 宮崎市学園木花台西1丁目1番地

宮崎大学工学部教務・学生支援係

TEL 0985-58-2874

## VIII. 個人情報取扱いについて

- (1) 個人情報については、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」及び「国立大学法人宮崎大学個人情報保護規則」に基づいて取り扱います。
- (2) 出願に当たってお知らせいただいた氏名、住所その他の個人情報については、①入学者選抜（出願処理、選抜実施）、②合格発表、③入学手続業務を行うために利用します。
- (3) 入学者選抜に用いた試験成績は、今後の入学者選抜方法の検討資料の作成のために利用します。
- (4) 上記(2)及び(3)の各業務での利用に当たっては、一部の業務を本学より該当業務の委託を受けた業者において行うことがあります。
- (5) 出願に当たってお知らせいただいた個人情報は、入学者のみ①教務関係（学籍、修学指導等）、②学生支援関係（健康管理、就職支援、入学金免除、授業料免除、奨学金申請等）、③授業料等徴収に関する業務を行うために利用します。

## Ⅸ. アドミッションポリシー

### 1. 学部のアドミッションポリシー

工学部では、宮崎県唯一の工学系学部として、「宮崎に根ざし世界に目を向けた工学部」を目標に、人間性豊かで、コミュニケーション能力が高く、確実な基礎学力と幅広い応用能力を身につけ、21世紀の高度な科学技術分野や最先端技術分野で活躍できるような、問題発見・解決能力を備えた創造性豊かな技術者の育成を目指しています。

したがって、本学部各学科のアドミッションポリシーは以下のようになっています。

### 2. 学科のアドミッションポリシー

学科	アドミッションポリシー等
環境 応用 化学 科	1. 教育理念（教育理念・目標、育成する人材像）
	<p>環境応用化学科では、企業等で実践力を有する工学専門職としてグローバルに活躍できる技術者の育成を教育の目標に掲げ、学士課程を通じて以下の資質や能力を修得した学生に学位を授与します。</p> <p>(1) 自然との共生や環境との調和や社会への貢献の視点を持ち、社会的責任感と科学的倫理観をもって物事を判断する能力</p> <p>(2) 産業界で技術者として活躍するために必要な工学および化学の基礎を習得し、実験や観察の結果を考察でき、問題解決に柔軟に応用する能力</p> <p>(3) 自主的、継続的な学習により知識や技術を高め、それらを課題の探求と解決に生かし、正しく明瞭にまとめ伝える能力</p>
	2. 入学者受け入れ方針（求める人材像）
	<p>本学科は化学、化学工学及び生物工学を基礎として、地球環境や生態系を保全する物質・資源・エネルギーの生産及び循環プロセスに関する技術の創造と発展に貢献できる人材の育成を目的とした教育研究を行います。</p> <p>したがって、本学科では次のような人を求めます。</p> <p>(1) 化学の知識・技術・考え方を真剣に学び、それを将来、応用化学あるいは環境・生物工学などの分野で活かしたいという情熱を持っている人</p> <p>(2) 化学及び環境に関連する自然科学に対して幅広い興味や好奇心を持っている人</p> <p>(3) 実験や観察が好きで科学現象について考え、それを表現できる人</p> <p>(4) 数学、化学を含む理科及び語学の基礎学力を有し、それを身近な問題に応用できる人</p>
	3. 入学者選抜の基本方針
	<p>本学科では、多様な観点から受験生の学力や資質を見るため、以下の入試方法によって積極的に学生を受け入れます。</p> <p>【編入学試験】（推薦入試・一般入試）</p> <p>高専や短期大学などから3年次編入に相応しい基礎学力を備え、環境応用化学への強い学修意欲を持つ人を受け入れます。</p>
	4. 高等学校等で履修すべき科目、取得しておくことが望ましい資格等
	<p>本学科へ入学後の科目履修において支障が生じないためには、高等学校または高等専門学校等で履修すべき教科・科目について偏りなく履修しておくことが必要です。特に、化学、数学および物理については、それらの基本的な知識と理解を有し、さらに教科書レベルの標準的な内容を修得しておくことを求めます。</p>

学科	アドミッションポリシー等
社会環境システム工学科	<p>1. 教育理念（教育理念・目標、育成する人材像）</p>
	<p>本学科では、以下の能力を持つ技術者の育成を行っています。</p> <p>(1) 技術者の基礎となる数学を含めた自然科学の知識、コミュニケーション能力、自己学習能力、課題解決能力、ならびに技術者としての倫理を兼ね備えた能力</p> <p>(2) 土木環境工学のどの分野でも活躍できるための基礎能力</p> <p>(3) 社会の要請を察知し、理解して適切な行動ができる能力</p>
	<p>2. 入学者受け入れ方針（求める人材像）</p>
	<p>本学科は、自然科学、社会科学ならびに情報工学の素養をあわせ持ち、総合的観点から「地球にやさしくうるおいのある社会・環境」を計画・建設・管理できるシビルエンジニアを育成するために、建設工学系科目、環境工学系科目及び計画学系科目を配置して体系的な教育を行います。</p> <p>以上のような観点から、本学科は次のような人を求めます。</p> <p>(1) 自然との共生が可能な生活・生産基盤（水道、下水道、公園、道路、橋、トンネルなど）の建設や維持補修、交通計画や都市計画、環境保全や廃棄物処理・資源化などの技術や計画に興味を持っている人</p> <p>(2) 土木・環境分野および社会的課題についての興味を持ち、それらに関し本や新聞を読むなど積極的に自己学習できる人</p> <p>(3) 自然科学の基礎学力（数学、物理、化学）を有している人</p> <p>(4) 日本語と英語を基礎としたコミュニケーション能力を有している人</p>
	<p>3. 入学者選抜の基本方針</p>
	<p>本学科では、多様な観点から受験生の学力や資質を見るため、以下の入試方法によって積極的に学生を受け入れます。</p> <p>【編入学試験】（推薦入試・一般入試）</p> <p>3年次編入に相応しい学力を備えるとともに、土木・環境分野と社会的課題に対する強い興味と解決意欲を持ち、加えてコミュニケーション能力を有している人を受け入れます。</p>
	<p>4. 高等学校等で履修すべき科目、取得しておくことが望ましい資格等</p>
<p>本学科へ入学後の科目履修において支障が生じないためには、高等学校や高等専門学校等で履修すべき教科・科目について偏りなく履修しておくことが必要です。特に、社会環境システム工学（土木・環境工学）分野の中核的科目である数学、物理および化学については、それらの基本的な知識と理解を有し、さらに教科書レベルの標準的な問題を解くことができることを求めます。</p>	

学科	アドミッションポリシー等
環境 ロボ ティ クス 学科	<b>1. 教育理念（教育理念・目標、育成する人材像）</b>
	<p>本学科では以下の能力を持つ技術者の育成を行っています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 広い視野から多面的に物事を考える能力</li> <li>(2) 数学、機械、電気電子、情報、化学などの専門領域の基礎知識</li> <li>(3) 与えられた課題を達成する過程において、自ら問題を発見、整理、解決する基礎能力と工学デザイン能力</li> <li>(4) 与えられた課題を達成する過程において、グループ討論を通じて得られるチームワーク力（リーダーシップ、協調性）</li> <li>(5) 相手に自分の考えを理解してもらえ外国語を含むコミュニケーション能力</li> <li>(6) 社会における技術者の役割や使命を理解し、技術者として必要な倫理や規範を判断できる能力</li> <li>(7) 課題や問題に対して、自律的、継続的に取り組むことができる能力</li> </ol>
	<b>2. 入学者受け入れ方針（求める人材像）</b>
	<p>本学科は、人々の生活環境や自然環境をより良いものにするために、ロボットや制御機器を設計・開発する知識を習得させることで、「近未来の生活環境を創生する」人材の育成を目指しています。</p> <p>現在の日本は、環境破壊、エネルギー不足、高齢化など大きな社会問題に直面しており、この対策・改善のためにも工場、農林水産業を含む職場、家庭などで活用できる機器やロボットの開発は今後重点をおくべき分野です。</p> <p>したがって、本学科では次のような人を求めています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 数学・理科・英語などの基礎学力やコミュニケーション能力を有している人。</li> <li>(2) 機械・電気電子・化学およびコンピュータについて横断的で実践的な知識・技術を身につけ、さらに先端技術を継続的に修得する意欲を持つ人</li> <li>(3) ロボット、介護・福祉機器、環境制御機器などの設計開発に興味と関心があり、人々の生活環境や自然環境の改善に貢献する意欲を持つ人</li> </ol>
	<b>3. 入学者選抜の基本方針</b>
	<p>本学科では、多様な観点から受験生の学力や資質を見るため、以下の入試方法によって積極的に学生を受け入れます。</p> <p>【編入学試験】（推薦入試・一般入試）</p> <p>環境ロボティクス学科に関連する高度な専門教育や研究を希望し、3年次編入に相応しい学力・能力及び学習意欲を持つ人を受け入れます。</p>
<b>4. 高等学校等で履修すべき科目、取得しておくことが望ましい資格等</b>	
<p>高等学校や高等専門学校等の教育課程や入試区分等の違いもあるため、理解のレベルは個人により異なりますが、入学後の科目履修において支障が生じないためには、高等学校や高等専門学校等で履修すべき教科・科目について偏りなく履修しておくことが必要です。特に、中核的科目である数学と理科については、それらの基本的な知識と理解を有し、さらに教科書レベルの標準的な問題を解くことができることを求めます。</p>	

学科	アドミッションポリシー等
機械設計システム工学科	<p>1. 教育理念（教育理念・目標、育成する人材像）</p>
	<p>本学科で学業を修めることにより次のような能力を身につけることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 社会の要求や制約に応えるため、自主的に計画して、それを継続的に実行できる能力</li> <li>(2) 人と機械との共存や機械と自然との調和を考えるための能力</li> <li>(3) 社会秩序や自然環境保護に対する技術者の責務を考える能力</li> <li>(4) 機械技術者としての工学の基礎および専門知識</li> <li>(5) 自然環境を維持するために、資源とエネルギーの有効利用を考える能力</li> <li>(6) 自分のアイデアを実現できるデザイン能力およびそれを説明するコミュニケーション能力</li> <li>(7) 得られた成果を吟味し、まとめる能力</li> </ul>
	<p>2. 入学者受け入れ方針（求める人材像）</p>
	<p>この7つの能力を卒業生の身につけさせるため、本学科では次のような意欲と基礎学力を持つ人を求めています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 将来、国際的な視野に立ち、技術者の社会的責任を自覚して社会に貢献したいという強い意志・熱意・勉強意欲を持っている人</li> <li>(2) 専門科目を学ぶ上で必要となる数学および理科の基礎学力を持っている人</li> <li>(3) コミュニケーション能力を身につける上で必要となる国語、英語などの語学能力を持っている人</li> <li>(4) 自主的、継続的に学習する能力を身につける素地を持っている人</li> </ul>
	<p>3. 入学者選抜の基本方針</p>
	<p>2. で示した能力や意欲を持つ人を選抜するために、以下のような入試方法によって学生を積極的に受け入れます。</p> <p>【編入学試験】（推薦入試・一般入試）</p> <p>大学2年生終了時相当、またはそれ以上の機械工学に関する基礎学力や専門性を有し、自分の専門性をさらに磨き上げる意思を抱く人を選抜します。</p>
<p>4. 高等学校等で履修すべき科目、取得しておくことが望ましい資格等</p>	
<p>環境問題などの問題を解決するには、理数系の知識や能力を培うだけでなく、英語力を十分に磨き、文系の知識も習得する必要があります。そのため、理系文系を問わず高等学校の授業内容をしっかりと理解しておかねばなりません。</p> <p>また、機械工学の理論がニュートン力学を基礎として展開されていることから、本学科の専門科目を学ぶ上で数学と理科（物理・化学）は特に重要であり今後の学習の礎となります。そのため、高校の数学や理科（物理・化学）を深く理解し、標準的な問題を即座に解く応用力が不可欠です。3年次に編入を希望する者は、上記の知識や能力だけでなく大学2年生終了時相当の教養や基礎科目（数学、物理など）を修め、機械工学に関する初歩的な専門性を有していることが必要となります。</p> <p>以上のような理解や応用力を基礎として本学科で学ぶことによって、機械に関する複雑な現象を解析できるようになり、将来、皆さんが優れた新装置を創出する際の強い味方となります。</p>	

学科	アドミッションポリシー等
電子物理工学科	1. 教育理念（教育理念・目標、育成する人材像）
	<p>本学科では、以下の知識や能力を持つ技術者の育成を行っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 自然界や社会における問題や、科学や技術の社会に対する役割を理解する能力</li> <li>(2) 電子物理工学分野の専門技術者として必要な基礎および専門的な知識と技術</li> <li>(3) コミュニケーション能力</li> <li>(4) 技術者としての倫理観</li> <li>(5) 課題を見出し解決に向けて実践的に対応できる能力</li> </ul>
	2. 入学者受け入れ方針（求める人材像）
	<p>本学科は、現代産業の発展に寄与できる科学技術者の育成を目的とした教育をおこないます。特に、太陽光発電やエネルギー計測といった最先端の産業分野に象徴される高度技術社会に対応できる人材の育成に力を注ぎます。また、その教育方針に沿って、基礎的な物理学から最先端科学技術の理解へ繋がる教育内容を整備しています。</p> <p>したがって、本学科では次のような人を求めています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 自然科学や科学技術に強い関心があり、それらを生かして将来社会の役に立ちたいと思っている人</li> <li>(2) 数学、物理学などの基礎的学力を有し、持続して勉学に取り組むことのできる人</li> <li>(3) 日本語での講義を理解でき、基本的な英語力を持つ人</li> <li>(4) 課題の解決へ向けて積極的に行動できる人</li> </ul>
	3. 入学者選抜の基本方針
	<p>本学科における入学者の選抜にあたっては、基本的には電子物理工学の基本となる基礎学力と理数系の思考力・応用力を見ますが、多様な観点から受験生の学力や資質をみるため、以下の試験方法によって積極的に学生を受け入れます。</p> <p>【編入学試験】（推薦入試・一般入試）</p> <p>主に高専や大学から、3年次から電子物理工学科で学ぶのに必要な基礎学力を備え、専門技術者への強い志向を持つ人を受け入れます。</p>
	4. 高等学校等で履修すべき科目、取得しておくことが望ましい資格等
	<p>高等学校の教育や入試区分等の違いもあるため、理解のレベルは個人により異なりますが、入学後の科目履修において支障が生じないためには、高等学校で履修すべき教科・科目について偏りなく履修しておくことが必要です。特に、電子物理工学分野の中核的科目である数学と物理については、それらの基本的な知識と理解を有し、さらに教科書レベルの標準的な問題を解くことができることを求めます。</p> <p>なお、一部の科目に学力の不足がある場合も、入学後の修学に支障を来たさぬよう、初年次教育などにおいて配慮します。</p> <p>また、編入生については、これらに加え、編入後の科目履修において支障が生じないためには、電子物理工学科で2年次までに取得する基礎教育科目、専門基礎科目（数学と力学や電磁気学をはじめとする物理系科目）を履修していることを望みます。</p>

学科	アドミッションポリシー等
電気システム工学科	<p>1. 教育理念（教育理念・目標、育成する人材像）</p>
	<p>本学科では、以下の能力を持つ技術者の育成を行っています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 技術者にとって必要となる数学を含めた自然科学の知識</li> <li>(2) 電気エネルギーおよび情報通信分野に関する専門技術と実践能力</li> <li>(3) 課題探求能力、課題解決能力およびデザイン能力を有し、多様なグローバル社会の要請に応え得る能力</li> <li>(4) 技術者に求められるコミュニケーション能力</li> <li>(5) 技術者に求められる倫理観</li> <li>(6) 課題や問題に対して、自律的、継続的に取り組むことができる能力</li> </ol>
	<p>2. 入学者受け入れ方針（求める人材像）</p>
	<p>本学科はグローバル化した現代社会において、人類の福祉や社会生活に貢献できる工学技術者の育成を目的とした教育研究を行います。特に、本学科で教育研究の対象としている電気エネルギーシステムや情報通信システムはともに現代社会のライフラインを支える重要な社会基盤であり、安全・安心で、地球環境に優しく、かつIT技術を高度に利用する社会の発展に欠かせないものです。</p> <p>以上のような観点から、本学科は、電気システム工学分野に関心と学習意欲を持ち、かつ以下のような能力等を有する人を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 国際的な視野を有し、常に自分が何をもって社会に貢献できるかを問い続ける柔軟な考え方のできる人</li> <li>(2) 数学、理科、英語などの基礎的学力を有している人</li> <li>(3) 基礎的なコミュニケーション能力を有している人</li> <li>(4) 問題解決へ向けて、自分から積極的に目標と計画を立て、強い意志をもって持続的に取り組むことができる人</li> </ol>
	<p>3. 入学者選抜の基本方針</p>
	<p>本学科では、多様な観点から受験生の学力や資質をみるため、以下の入試方法によって積極的に学生を受け入れます。</p> <p>【編入学試験】</p> <p>（一般入試）</p> <p>電気システム工学分野で学ぶ専門基礎学力が備わっていることに加え、さらに高度な電気システム工学に関連する専門教育や研究を強く希望する他高等教育機関からの学生を受け入れます。</p> <p>（推薦入試）</p> <p>電気システム工学分野で学ぶ専門基礎学力が備わっていることに加え、さらに高度な電気システム工学に関連する専門教育や研究を強く希望し、一般入試では評価・確認が困難と思われる特徴的な資質・能力や学習意欲が備わっている他高等教育機関からの学生を受け入れます。</p>
<p>4. 高等学校等で履修すべき科目、取得しておくことが望ましい資格等</p>	
<p>高等学校ならびに高等専門学校等の教育課程や入試区分等には違いもあるため、理解のレベルは個人により異なりますが、入学後の科目履修において支障が生じないためには、高等学校ならびに高等専門学校等で履修すべき教科・科目について偏りなく履修しておくことが必要です。特に、電気システム工学分野の中核的科目である数学と物理については、それらの基本的な知識と理解を有し、さらに教科書レベルの標準的な問題を解くことができることを求めます。</p>	

学科	アドミッションポリシー等
情報システム工学科	<p><b>1. 教育理念（教育理念・目標、育成する人材像）</b></p>
	<p>本学科では、以下の能力を持つ技術者の育成を行っています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 問題を環境、人間、文化、社会、国際関係などの側面から多面的にとらえる能力</li> <li>(2) 工学技術が社会に及ぼす影響や技術者としての倫理的責任を理解</li> <li>(3) 数学、物理、化学、生命科学などの工学者としての基礎知識を習得し、それを応用する能力</li> <li>(4) 情報工学に必要な、数学及び情報科学の諸理論を習得し、それらを応用する能力</li> <li>(5) 計算機システムの構成や動作に関する知識を習得し、それを応用する能力</li> <li>(6) 問題解決にコンピュータを適切に利用する能力</li> <li>(7) 総合的視点で問題を分析し、問題を解決する方法を見出す能力</li> <li>(8) 日本語による論理的な記述、プレゼンテーションおよび討議を行う能力</li> <li>(9) 英語による情報を理解し、基礎的なコミュニケーションを行う能力</li> <li>(10) 自ら主体的かつ継続的に学習する素養</li> <li>(11) 与えられた制約の下で課題を解決するための計画を立て、遂行する能力</li> <li>(12) チームとして目標を共有し、コミュニケーションを図りつつ問題解決に取り組む能力</li> </ol>
	<p><b>2. 入学者受け入れ方針（求める人材像）</b></p>
	<p>本学科は、情報基盤を構築し高度に利用できる情報技術者の育成を目的とした教育研究を行います。情報処理技術は、急速に進化しながら適用範囲を拡大し続けており、それを支える技術者、特にソフトウェア技術者の養成が社会から強く求められています。</p> <p>以上のような観点から、本学科は次のような人を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 情報科学技術を通じ、人類の幸福と社会の発展に貢献しようとする意欲を持っている人</li> <li>(2) 公式を覚えるのではなく、公式そのものを導出できる力、すなわち論理的な思考能力を有している人</li> <li>(3) 情報工学の学習に必要な、数学、理科、英語についての基礎学力とコミュニケーション能力を有している人</li> <li>(4) 明確な目標を持って継続的に自己学習を行う意欲を持っている人</li> </ol>
	<p><b>3. 入学者選抜の基本方針</b></p>
	<p>本学科では、多様な観点から受験生の学力や資質を見るため、以下の入試方法によって積極的に学生を受け入れます。</p> <p><b>【編入学試験】（推薦入試・一般入試）</b></p> <p>主に高専や大学から、情報システム工学科の2年次終了相当の基礎学力や専門性を有していることに加え、専門技術者への強い志向を有している人を受け入れます。</p>
	<p><b>4. 高等学校等で履修すべき科目、取得しておくことが望ましい資格等</b></p>
	<p>本学科へ入学後の科目履修において支障が生じないためには、高等学校等で履修すべき教科・科目について偏りなく履修しておくことが必要です。特に、情報システム工学分野の中核的科目である数学、物理、英語については、それらの基本的な知識と理解を有し、さらに教科書レベルの標準的な問題を解くことができることを求めます。</p>

## アドミッション・ポリシーの変更について

宮崎大学工学部のアドミッション・ポリシーが一部変更になりましたので、こちらを参照していただきますようお願いいたします。

### 工学部

#### 学部のアドミッション・ポリシー

工学部では、宮崎県唯一の工学系学部として、「宮崎に根ざし世界に目を向けた工学部」を目標に、人間性豊かで、コミュニケーション能力が高く、確実な基礎学力と幅広い応用能力を身に付け、21世紀の高度な科学技術分野や最先端技術分野で活躍できるような、問題発見・解決能力を備えた創造性豊かな技術者の育成を目指しています。したがって、本学部各学科のアドミッション・ポリシーは以下のようになっています。

### 環境応用化学科

#### (1) 求める学生像

環境応用化学科では、企業等で実践力を有する工学専門職としてグローバルに活躍できる技術者の育成を教育の目標に掲げ、学士課程を通じて以下の資質や能力を身に付けた人材の育成を行います。

- 1) 自然との共生、環境との調和および社会への貢献の視点を持ち、社会的責任感と科学的倫理観をもって物事を判断する能力
- 2) 産業界で技術者として活躍するために必要な工学および化学の基礎を習得し、実験や観察の結果を考察でき、問題解決に柔軟に応用する能力
- 3) 自主的、継続的な学習により知識や技術を高め、それらを課題の探求と解決に生かし、正しく明瞭にまとめ伝える能力

そこで、環境応用化学科では、化学、化学工学および生物工学を基礎として、地球環境や生態系を保全する物質・資源・エネルギーの生産及び循環プロセスに関する技術の創造と発展に貢献できる人材の育成を目的とした教育研究を行います。

したがって、本学科では次のような人材を求めています。

- 1) 化学の知識・技術・考え方を真剣に学び、それを将来、応用化学あるいは環境・生物工学などの分野で活かしたいという情熱を持っている人（主体性）
- 2) 化学及び環境に関連する自然科学に対して幅広い興味や好奇心を持っている人（学問への関心）
- 3) 実験や観察が好きで科学現象について考え、それを表現できる人（思考力、表現力）
- 4) 数学、化学を含む理科及び語学の基礎学力を有し、それを身近な問題に応用できる人（知識・理解）

#### (2) 入学者選抜の基本方針

- 1) 編入学入試（推薦入試・一般入試）

平成29年4月末に掲載しますので、下記アドレスを参照してください。

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/admission/admission.html>

#### (3) 入学までに身に付けて欲しいこと

高等学校または高等専門学校等で履修すべき教科・科目について偏りなく履修しておくことが必要です。特に、化学、数学および物理については、それらの基本的な知識と理解を有し、さらに教科書レベルの標準的な内容を修得しておくことを求めます。さらに、協調性およびコミュニケーション能力など、大学での学習の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことを望みます。

## 社会環境システム工学科

### (1) 求める学生像

社会環境システム工学科では、技術者の基礎となる能力、土木環境工学のどの分野でも活躍できるための基礎能力、社会の要請を察知・理解して適切な行動ができる、また地球的視点から多面的に物事を考える能力を身に付けた人材の育成を目標としています。

そこで、社会環境システム工学科では、自然との共生が可能な社会基盤（水道、下水道、公園、橋、トンネルなど）の構築や維持補修、交通計画や都市計画、環境保全や廃棄物処理・資源化などの技術や計画に対して熱意を持って取り組み、土木・環境分野および社会的課題に関する興味学問への関心を有し、自然科学の基礎学力に関する知識・理解と日本語と英語を基礎とした表現力を持つ人、また、学習を通して獲得した知識・スキル・行動力を社会に還元することのできる積極的に自己学習できる主体性をもった人材を求めています。

### (2) 入学者選抜の基本方針

#### 1) 編入学入試（推薦入試・一般入試）

平成29年4月末に掲載しますので、下記アドレスを参照してください。

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/admission/admission.html>

### (3) 入学までに身に付けて欲しいこと

センター試験で課す入試科目として課しているかどうかに関わらず、数学、物理、化学など、高校で履修した科目に関する基礎学力を十分に身に付けると同時に、協調性、コミュニケーション能力など、大学での学習の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことが望まれます。

## 環境ロボティクス学科

### (1) 求める学生像

環境ロボティクス学科では、技術者としての倫理観、問題解決能力、専門分野で通用するコミュニケーション能力を身に付けた人材の育成を目標としています。

そこで、環境ロボティクス学科では、機械・電気電子・化学およびコンピュータ等の先端技術に関連する分野、ならびにロボット、介護・福祉機器、環境制御などの設計開発と生活環境や自然環境の改善に関連する学問への関心がある人材を求めています。

また、実験や観察において深く考察する思考力と、その結果の表現力、数学、理科、英語に関する知識・理解、学習を通して獲得した知識・スキル・行動力を社会に還元できる主体性がある人材を求めています。

### (2) 入学者選抜の基本方針

#### 1) 編入学入試（推薦入試・一般入試）

平成29年4月末に掲載しますので、下記アドレスを参照してください。

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/admission/admission.html>

### (3) 入学までに身に付けてほしいこと

センター試験で課す数学、物理、英語など、高校で履修した科目に関する基礎学力を十分に身に着けると同時に、協調性、コミュニケーション能力など、大学での学習効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことが望まれます。

## 機械設計システム工学科

### (1) 求める学生像

機械設計システム工学科では、機械と自然との調和を考える能力、社会秩序や環境保護に対する技術者の責務を考える能力、資源とエネルギーの有効利用を考える能力、機械工学に関連する問題解決能力と創造力、アイデアを実現できるデザイン能力およびそれを説明するコミュニケーション能力を身に付けた人材の育成を目標としています。

そこで、機械設計システム工学科では「人と自然に優しいものづくり」に関連する技術の開発や研究に対して熱意を持って取り組み、数学及び理科の基礎的な知識・理解を有し、コミュニケーション能力を身に付ける上で必要となる語学能力と学問への関心を持つ人、また、学習を通して獲得した知識・スキル・行動力を社会に還元することのできる意欲溢れる人材を求めています。

### (2) 入学者選抜の基本方針

#### 1) 編入学入試（推薦入試・一般入試）

平成29年4月末に掲載しますので、下記アドレスを参照してください。

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/admission/admission.html>

### (3) 入学までに身に付けて欲しいこと

数学、物理・化学、英語など、高校で履修した科目に関する基礎学力を十分に身に付けると同時に、協調性、自主的・継続的に学習する能力など、大学での学習の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことを望みます。

## 電子物理工学科

### (1) 求める学生像

電子物理工学科では、人間の文化、社会、自然、及び専攻する学問分野の知識・技能、社会の一員としての意識をもった人間性、社会性、国際性、課題を発見し、情報や知識を複眼的、倫理的に分析して、その課題を解決する力を身に付けた人材の育成を目標としています。

そこで、電子物理工学科では、太陽光発電やエネルギー計測といった最先端の産業分野に対して熱意を持って取り組み、専門技術者として必要な基礎および専門的な知識・技能を有し、課題を見出し解決に向けて対応できる思考力と自ら学習計画を立て、主体的に学ぶ力を持つ人、また、学習を通して獲得した知識・スキル・行動力を社会に還元することのできる課題の解決へ向けて積極的に行動できる人材を求めています。

### (2) 入学者選抜の基本方針

#### 1) 編入学入試（推薦入試・一般入試）

平成29年4月末に掲載しますので、下記アドレスを参照してください。

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/admission/admission.html>

### (3) 入学までに身に付けて欲しいこと

センター試験で課す物理、数学、化学など、高校で履修した科目に関する基礎学力を十分に身に付けると同時に、表現力、コミュニケーション能力など、大学での学習の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことを望みます。

## 電気システム工学科

### (1) 求める学生像

電気システム工学科では、技術者にとって必要となる数学を含めた自然科学の知識、電気エネルギーおよび情報通信分野に関する専門技術と実践能力、課題探求能力、課題解決能力およびデザイン能力を有し、多様なグローバル社会の要請に応え得る能力、技術者に求められるコミュニケーション能力、技術者に求められる倫理観、課題や問題に対して、自律的、継続的に取り組むことができる能力を身に付けた人材の育成を目標としています。

そこで、電気システム工学科では、電気電子工学分野に対して熱意を持って取り込み、国際的な視野を有し、常に自分が何をもって社会に貢献できるかを問い続ける柔軟な考え方や数学、理科、英語などの基礎的学力、基礎的な表現力を持つ人、また、問題解決へ向けて、自分から積極的に目標と計画を立て、強い意志をもって持続的に取り組むことができる人を求めています。

### (2) 入学者選抜の基本方針

#### 1) 編入学入試（推薦入試・一般入試）

平成29年4月末に掲載しますので、下記アドレスを参照してください。

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/admission/admission.html>

### (3) 入学までに身に付けて欲しいこと

センター試験で課す数学、物理など、高校で履修した科目に関する基礎学力を十分に身に付けると同時に、履修すべき教科・科目について偏りなく履修しておくこと、電気システム工学分野の中核的科目である数学と物理については、それらの基本的な知識と理解を有し、さらに教科書レベルの標準的な問題を解くことができることなど、大学での学習の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことを望みます。

## 情報システム工学科

### (1) 求める学生像

情報システム工学科では、社会に対する責任感、問題解決能力、専門分野で通用する高度なコミュニケーション能力を身に付けた人材の育成を目標としています。

そこで、情報システム工学科では、情報科学技術を通じ、人類の幸福と社会の発展に貢献しようと熱意を持って取り組み、公式を覚えるのではなく公式そのものを導出できる知識・技能を有し、情報工学の学習に必要な数学、理科、英語についての基礎学力を持ち、明確な目標を持って継続的に自己学習を続けられる主体性を持つ人、また、学習を通して獲得した知識・スキル・行動力を社会に還元することのできる情熱に溢れる人材を求めています。

### (2) 入学者選抜の基本方針

#### 1) 編入学入試（推薦入試・一般入試）

平成29年4月末に掲載しますので、下記アドレスを参照してください。

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/admission/admission.html>

### (3) 入学までに身に付けて欲しいこと

センター試験で課す数学、物理、英語など、高校で履修した科目に関する基礎学力を十分に身に付けると同時に、主体性など、大学での学習の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことを望みます。